

令和6年6月会議

一般質問 参考資料

大山 希世 議員

【発達障害と療育について】

主として先天的な脳機能の障害によるもので、乳幼児期から青年期にかけての発達の過程において明らかになるものをさす言葉として用いられている。

特徴として、発達障害は外見から分かりにくく、その症状や困りごととは十人十色です。そのため、発達障害の特性を「自分勝手」「わがまま」「困った子」などと捉えられ、コミュニケーションがとても苦手なことが多いため、誤解を受けやすい面がある。

しかしながら、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りからみてアンバランスな様子が理解されにくい障害といえる。

最近では、発達が気になる子どもへの早期療育(発達支援)を行う例が増えてきている。

早期から介入し療育(発達支援)をおこなうことで、特性自体を治療することは難しいものの、将来の自立と社会参加を目指すための支援が可能。

また、いじめ・不登校・抑うつなど二次的な問題を予防することにもなると考える。

【ウェクスラー式知能検査とは】

ウェクスラー式知能検査はアメリカで開発された代表的な知能検査である。

検査は被験者の年齢に応じて3種類ある。

ウェクスラー知能検査の種類	対象年齢
WPPSI(ウィブシー)	幼児用(2歳6ヶ月～7歳3ヶ月)
WISC - V(ウィスクファイブ)	児童用(5歳0か月～16歳11ヶ月)
WAIS(ウェイス)	成人用(16歳～90歳11ヶ月)

【表中の児童用に用いられる『WISC - V検査』とは】

4つの指標得点がある

- ① 言語理解指標：言語による理解力・推理力・思考力に関する指標。ことばをことばとして認識してアウトプットする力。
- ② 知覚推理指標：視覚的な情報を把握し推理する力、視覚的情報に合わせて身体を動かす力に関する指標。目で見た情報を関連付け、意味のあるものへ統合する力。
- ③ ワーキングメモリ指標：一般的に情報を記憶しながら処理する能力に関する指標。読み書き、算数といった学習能力や集中力に大きく関わることで指摘されている。
- ④ 処理速度指標：視覚情報を処理するスピードに関する指標。マイペースで切り替えが苦手である場合なども、この指標得点が低くなることもある。

といった、代表的な知的機能を合成得点化しデータとして示されるもの。